呉工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	現代文Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0003	科目区分	一般 / 選択必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	機械工学科	対象学年	1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	『高等学校現代の国語』（数研出版）・『高等学校言語文化』（数研出版）・『プレミアムカラー　国語便覧』（数研出版）・『新版 チャレンジ常用漢字』（第一学習社）		
担当教員	上芝 令子		

到達目標

1．日本語で書かれた文章を的確に読解すること。
2．さまざまな文章を読解することで思索する力、豊かな感性を涵養すること。
3．作品が書かれた時代（文学史）や作家に関する知識を身につけること。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	日本語で書かれた文章を的確に読解できる	日本語で書かれた文章を読解できる	日本語で書かれた文章を読解できない
評価項目2	さまざまな文章を読解することで思索する力、豊かな感性を養うことが的確にできる	さまざまな文章を読解することで思索する力、豊かな感性を養うことができる	さまざまな文章を読解することで思索する力、豊かな感性を養うことができない
評価項目3	作品が書かれた時代や作家に関する知識を身につけることが的確にできる	作品が書かれた時代や作家に関する知識を身につけることができる	作品が書かれた時代や作家に関する知識を身につけることができない

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)

教育方法等

概要	日本語で書かれた文章を的確に理解する能力を養うため、小説、評論などの文章を読解する。また、自分の考えをまとめ表現できる思索力と言語能力を身につける。
授業の進め方・方法	講義を基本とする。週に一度を目安に漢字テストを実施する。適宜、課題提出も課す。新型コロナウイルスの影響により、授業内容を一部変更する場合があります。
注意点	授業態度は常に真摯にとり組む姿勢が基本です。積極的に学び、文章を読むことの楽しさ、奥深さに向き合ってください。漢字テストは楷書で丁寧に記すよう、くれぐれも留意しておくこと。 （新型コロナウイルスの影響により，授業内容を一部変更する可能性があります。）

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	詩「I was born」（吉野弘）「サーカス」（中原中也）	1、詩「I was born」ほかを読解・鑑賞する。詩情のありかを的確に捉える。表現に込められた感性を様々な角度から読みとる。作者や背景に対する知識を学び、作品を鑑賞できる素養を養う。
		2週	詩「I was born」（吉野弘）「サーカス」（中原中也）	
		3週	詩「I was born」（吉野弘）「サーカス」（中原中也）	
		4週	評論「他者を理解するということ」（鷲田清一）	2、評論「他者を理解するということ」を読解する。自己と他者の理解について考察し、論理の展開を的確に捉える。筆者の主張を様々な角度から批評、考察する。
		5週	評論「他者を理解するということ」（鷲田清一）	
		6週	評論「他者を理解するということ」（鷲田清一）	
		7週	中間試験	
		8週	答案返却・解説	
	4thQ	9週	小説「沖縄の手記から」（田宮虎彦）	3、小説「沖縄の手記から」を読み、鑑賞する。描かれている事象について各人が理解し、思索する。戦争と向き合う文学を学び、現代に生きる我々の責任と自由について思索を深める。
		10週	小説「沖縄の手記から」（田宮虎彦）	
		11週	小説「沖縄の手記から」（田宮虎彦）	
		12週	小説「沖縄の手記から」（田宮虎彦）	
		13週	小説「沖縄の手記から」（田宮虎彦）	
		14週	小説「沖縄の手記から」（田宮虎彦）	
		15週	期末試験	
		16週	答案返却・解説　諸課題	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	

				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0